

九月七日(土)〜八日(日)
県山岳連盟県北支部
支部交流会・くろがね小屋

報告 編集部



九月七日(土)〜八日(日)、安達太良山くろがね小屋で、県山岳連盟県北支部の支部交流会が開催された。当日小屋集合は午後三時、当会から四名が参加うち三名は山頂経由。一人は後発で酒運搬小屋直行。部屋は十二号室通称布回部屋。午後四時からは一階のテーブルで交流会が始まった。□□支部長挨拶の後、各山岳会からの自己紹介。テーブルの上は酒、ビール、ワイン、つまみで一杯。夕食の為テーブル譲ったりしたが、酒盛りは消灯時間まで続いた。翌朝五時半からの朝食後、記念写真撮影して散会した。地上は雲海

九月二十九日(日)
秋の僧悟台登山道整備

報告 □□□□・□□□



夜のくろがね小屋

で覆われていた。支部員総員十七名が参加した。



▼参加した□□(熱中症を発症)の個人的感想です。

▼□□常任顧問の報告です。
 八時十分、我が家を出て塩沢スキー場、八時二十分歩行開始する。天候は霧雨。九時二十五分、見晴岩、僧悟台(分岐)でようやく先行組に追いつく。作業中の皆をパスして目的地・東鳥川の水場を目指す。一本松上部で特別参加の岳観協の□□さんが追いつき合流する。氏の話では後から皆も来る由。十一時、水場着、小休止して皆を待つが姿が見えず、後続者を諦め、BCを雪渓跡と定め移動する。十一時二十五分、雪渓跡着、昼食。十一時四十五分、刈払い機に燃料を満タンにして笹平の縦走路へ出発する。下山開始を十四時丁度と決め、縦走路の鉄山側と笹平から水場まで順次刈払い作業。水場を五十mほど峠側に戻ったところでタイムアップ。十四時十分、

下山開始、十六時五分、スキー場下山する。□君が待っていてくれた。あいにくの天候だったが当初の予定通り水場から笹平の縦走路の整備を終えることが出来た。
 ▼参加した□□(熱中症を発症)の個人的感想です。
 天気予報では中通りは「曇り一時雨」、実施危ぶまれたが前日になって「雨傘」印が消えたので、実施することとした。午前七時半、塩沢登山口では曇り。機材を担いで出発。湯川の橋、向こう側がずれていて(おそらく大雨で浮き上がり)で危なっかしい。渡ってから位置を直して揺れは少し改善した。実はこのあたりで顔から汗が噴き出して来た、熱中症の症状だ。水場まで小休止、その上の「岩場(宮という)」でも小休止。その上「角松」でも小休止。「見張らし岩」当たりから雨が降り出した。僧悟台を進むに従って雨は弱くなった。強くなったり、分岐でも止む気配は無く、稜線でも止むこと期待できない状況だったため、こ

で今回の作業は止めることにした。折角上って来たので、分岐の広場、刈払いしていたところ、後発の□□常任顧問が上がって来て、稜線に向かったという話。何人が同行したという話。岳温泉観光協会□□さんも一緒だという。みんなが上がり始めたので、私も登る事にした。熱中症でつらいので、草刈機は「溶岩堤防・下一本松」に置いた。更に登って先に登っていた人達を追い越して、最後に「上一本松」で一番上にいた、□□さんを追い越して、「水飲み場」に下り掛けたが、午前十一時近くで、風雨強くなっていたので、稜線まで登るのは断念して、ここから下山することとした。途中出会った人には私下山する旨伝えて、皆さんも作業当分に切り上げて、下山するよう話した。十三時過ぎ分岐あたりで、観光協会の□□さんからメール、「笹平で刈払い作業実施、終わって、雪渓まで下がった」由。更に下って「見張らし岩」着、昼食にした。そこに□□さん、□□さん以外のメンバーも到着。写真撮影。十五時過ぎには、雨の中虹の架かった塩沢登山口に無事下山した。□□さん□□さんは十六時過ぎに無事、雨の中塩沢登山口に下山した。

九月一日 (日)

秋田県・乳頭山

報告 □□□□



《テーマ》
高層湿原と乳頭山からの眺望を楽しむ

初めて秋田駒ヶ岳へ行った時から気になっていた乳頭山、今回実現することが出来た。それも七月に盛岡から来た登山者に安達太良山を案内、その時「岩手の山にも来て下さい」の話が

あり、今回 乳頭温泉も予約が取れ、八月三十一日二本松九時出発、乳頭温泉に午後四時(二本松から約三五〇キロ)に着く。盛岡の方とは休みが合わず一緒に登る事が出来なかったのが残念です。
夜、明日の行程の打合せ。九月一日、八時出発、孫六温泉口からの入山が、蟹場

温泉口から入山となってしまった。このコースは下山コース。地図と現地の確認不足。反省しなければならぬ。登山道はしっかりしているが、前後の雨と朝霧で、登山道に出てはいるが露払いで下半身が濡れる。縦走路と合流九時十五分、ここからは県境の尾根歩き、小さな湿原などあり、古い木道もあり、歩きやすい。約一時間位歩き、小さな掘をヒトマタギ。急な木段山を捲くように造られている。木段から解放されると、大小の石の沢の小川のような急登が続く。少し開けた所が田代平、広い草原となっていて早くも草紅葉が始まっていた。池塘などもあるが霧で見晴らしが無く残念。孫六温泉コースと合流。まもなく田代平山荘(避難小屋)に着く。十一時、少し早い山頂での昼食をあきらめ、小屋での昼食。五人組の秋田から来た

という人達と楽しい昼食と became. 十二時小屋出発、表に出ると青空が少し出ています。十分ほど登ると、森林限界。山頂と思われる所が見える。後を向くと田沢湖、秋田駒ヶ岳は見えないが見る事ができる。登山道にはリンドウが咲き疲れを癒やしてくれ。約四十分で乳頭山山頂。秋田駒ヶ岳・田沢湖・太平山・八幡平・岩手山・網張温泉やスキー場など眺望を楽しむ事ができる。山頂は平らな石のカレ場。片側は人を寄せ付けない絶壁。反対側はなだらかな低木地となっている眺望を楽しみ、風が強くなってきたので下山。一時、田代平山荘まで約三十分、下山は間違いのないよう確認、孫六温泉口へ無事(十五時)下山する事が出来た。下山後、別の温泉での風呂、二つだけの温泉だが温泉巡りを楽しみ、十六時半、帰路となる。



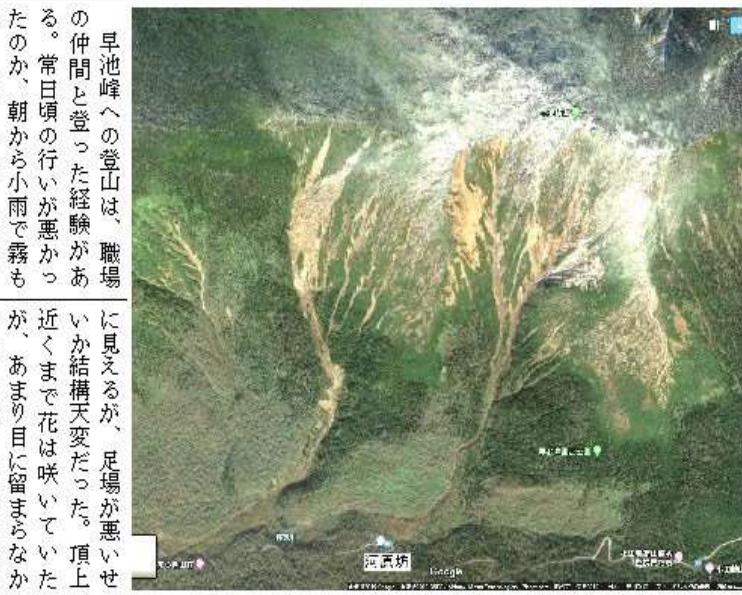
田代平山荘

早池峰への登山は、職場の仲間と登った経験がある。平日頃の行いが悪かったのか、朝から小雨で霧も立ち込めていた。早池峰山は、高山植物の種類が多く、特にハヤチネウスユキソウは、ヨーロッパアルプスに咲くエーデルワイスに最も近いと言われている。花が綺麗な七月、河原坊から登った。夏でも雨に打たれると体温が奪われ、難儀して登った。傾斜が厳しくなると岩陰にウスユキソウを見つけた。花の綿毛に水滴が付き、花本来の姿ではなかった。遠くに見る山容はなだらか

に見えるが、足場が悪いせいか結構大変だった。頂上近くまで花は咲いていたが、あまり目に留まらなかった。山登りは晴天に限ると、早々に下山した思いがある。
常に、登山を計画する時は、長期の天気予報を確認している。身近な山で再度登ってみたい山が早池峰だった。七月下旬、天候が良いのを確かめ、前回と同じ河原坊から登った。天候も良かったので、早朝から登山者の列が出来た。アオモリトドマツやコマツガの林と沢を渡り、七合



ハヤチネウスユキソウ、ウィキペディアから



二〇一四年七月二日
天文学的精度の出会い、早池峰山

報告 □□□□

口の頭垢離(こうべごりり)に着いた。ここからは尾根に取り付く。だんだん傾斜がきつくなり、岩場を行くとハヤチネウスユキソウ、チングルマなどの高山植物の群生地があった。
今度はスッキリしたハヤチネウスユキソウが咲き誇り、登山者を迎えてくれた。山頂で一休みをしていると、何と狭山の弟がヒョッコリ顔を出した。突然で驚き、「どーしたの」が挨拶だった。
最近、弟も山登りをしていとは聞いていたが、早池峰山で合うとは夢にも思っていなかった。弟は小田越から登ったので、山頂が丁度中間地点、「でもあれだけの登山者がいたのによく見付けた」と驚いた。弟も花の綺麗な山と知り、「登りたかった」と話していた。しかし、珍しいことでもなく、北海道の雌阿寒岳で知り合いと会った事がある。